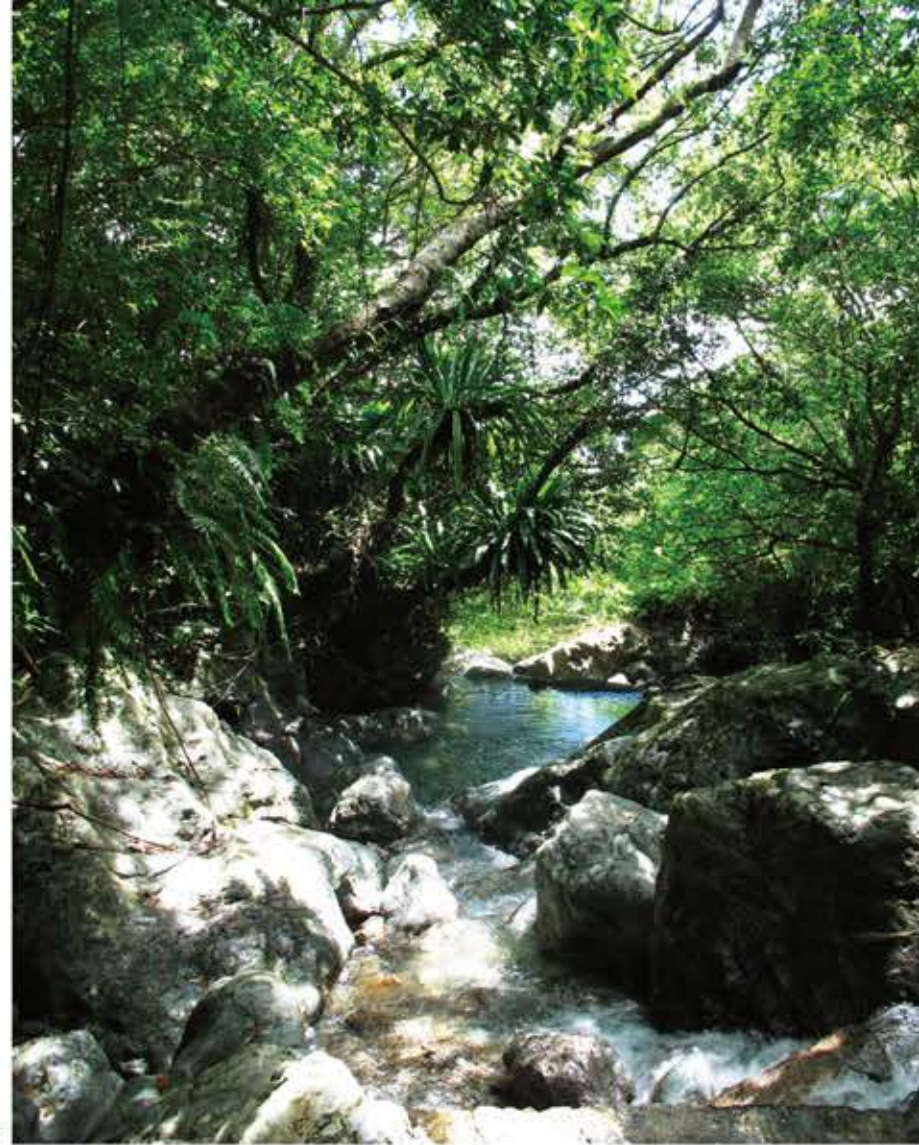


生物多様性を守るために



世界自然遺産登録への挑戦

奄美大島・徳之島・沖縄島北部および西表島を世界自然遺産に登録しようという活動をご存じでしょうか。約二百万年前に大陸から離れ、独自の生態系を構築してきたこれらの島々は、アマミノクロウサギやイリオモテヤマネコといった希少種たちの宝庫。その生物多様性と、生息地となる豊かな自然を世界遺産として保全しようという動きです。今夏の登録を目指していますが、実はこの活動にJALグループも大きく関わっています。

地域と共に

2016年には登録応援を宣言。プロモーション動画の制作や歌手の宮沢和史さんと候補地の自然と唄を巡るツアーなどを実施してきました。また、沖縄を拠点とする日本トランスオーシャン航空（JTA）や琉球

今回のテーマに当てはまる目標



01.奄美最高峰の山「湯湾岳」水系の一つ、宇検村（うけんそん）の四級（よしな）親水公園。02.JTA「世界自然遺産号」の機内。特別仕様の紙コップや座席のヘッドレストカバーでお客さまをお迎えします。（2019年撮影）03.ウミガメの産卵地としても有名な徳之島の里久浜。04.国の天然記念物に指定されているヤンバルクイナ。世界でも沖縄島北部のやんばる地域だけに生息しています。

JALグループは、これら世界自然遺産候補地の島々を結ぶ奄美群島アイランドホッピングルートも運航しています。

05.イリオモテヤマネコが描かれたJTAのウイングレット。06.JTAやJACでは、地域の方と共にビーチクリーン活動を定期的に行っています。



自然保護を支援する機内販売グッズ



希少種が描かれたお散歩ボトル（JTA・RAC機内販売）



希少種が刺繍されたタオルハンカチ（JAC機内販売）

これらの売り上げの一部は、環境保全事業や自然保護団体に寄付されます。

2020年は国際植物防疫年

世界の食料の8割は植物由来。しかしその2〜4割が病害虫による被害で失われています。海外や沖縄などからの植物、果物の持ち込みや持ち出し規制は、こうした病害虫の影響を最小限に食い止めるためです。JALはオフィシャルサポーターとして、「国際植物防疫年2020」の活動を応援しています。



豊かな地球を次世代へ

JALグループではこのほかの地域でも、公益財団法人世界自然保護基金ジャパン（WWFジャパン）や農林水産省の方を招き、野生生物の違法取引防止や植物防疫についての勉強会を行っています。参加した社員からは「実は身近なところでも違法な取引が行われていることを知った。啓発に力を入れていきたい」という声が上がっています。「豊かな地球を次世代へ」というJALグループの行動規範のもと、今後さまざまな側面から、海や陸の豊かさの保全に貢献してまいります。

2019年には地元企業や団体をつなぎ世界自然遺産登録を推進する共同体を、鹿児島と沖縄で発足。参加組織の強みを生かし、自然環境保護や自然を生かした地域振興に取り組んでいます。

エアークommunity（RAC）、鹿児島を拠点とする日本エアコミュニティ（JAC）では、社内勉強会の実施、密猟・密輸対策連絡会議への参画、希少種のロードキルを防ぐ道路標識の設置、奄美群島を巡る「奄美トレイル」の整備やPRなど、地域と一体となって自然環境の保護や啓発に努めています。



2015年9月、全国連加盟国（193カ国）により「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいきます。